

SAKASO

「さかそう」



特集 先生に聞いてみよう

感染対策チームのこと。



2023.8 Vol.61

お知らせ

大規模災害訓練を実施します

坂総合病院では例年大規模な地震の発生などを想定した訓練を行っていますが、本年も災害時の医療体制の構築や傷病者の受け入れの訓練を行う予定です。当日は塩釜消防本部・救急隊や自治体の担当者なども同行します。

災害訓練は、地域災害拠点病院としての大切な務めのひとつです。実施中は入院中の皆さまをはじめ外来通院中の皆さまにもご負担をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

詳細な案内は、開催日が近くなったときに院内掲示などでお伝えします。

- 訓練日時：2023年10月12日(木) 14:00～16:00
- 場所：坂総合病院 1・2階



診療予約・変更・お問合せ

まずはコールセンターへお電話いただきご確認をお願いいたします。

コールセンター **022-361-8288**

- 平日 8:30～16:30 (小児科のみ8:00～)
 - 土曜 8:30～11:30 (小児科のみ8:00～)
- ※日曜・祝祭日、年末年始(12/30～翌年1/3)、8/16(お盆)は休業。

- ◎ 紹介状をお持ちの方は、必ずその旨をお伝えください。
- ◎ 上記時間以外で救急診療のお問合せは、病院代表番号(022-365-5175)にお電話をお願いします。

詳細はwebサイトでもご確認いただけます。

坂病院 🔍 検索 <https://www.m-kousei.com/saka/>

表紙について

撮影を行ったのは、矢島先生が何度も足を運んだことがある「マリゲート塩釜」内のイタリアン店。海を臨むテラス席で、自家製生麺が絶品のパスタランチをいただきました。

- 表紙撮影／プレアマリーナ



電車の場合 ▶ JR仙石線・下馬駅下車。駅前が当病院です。

お車の場合 ▶ 第三駐車場は、当院ご利用の方は無料です。第三駐車場と病院間の送迎バスを運行しています。

SAKASO 坂総合病院 広報誌「さかそう」
2023年8月1日発行

公益財団法人宮城厚生協会
坂総合病院

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5 <https://www.m-kousei.com/saka/>
【広報誌に関するお問合せ】Tel 022-365-5175(代)



毎回特集内容を変え、病気や病院のあれこれを発信。今回は、「感染対策チーム」について紹介します。

特集

先生に聞いてみよう

感染対策 チーム のこと。

Q 坂総合病院の感染対策チームはどんな体制を取っていますか？

感染症専門医、感染管理認定看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されています。それぞれの専門性を発揮しながら院内の感染対策活動に従事しています。

Q 感染対策チームはどのような活動を行なっているのですか？

ひとつは定期的な院内ラウンドやミーティングを行い、院内感染の状況を把握してその予防や拡大防止について指導や教育を行うことです。また薬剤が効きにくくなる「耐性菌」が出現するリスクを軽減するために、抗菌薬が適切に使用されているかを監視し、必要があれば担当医師に助言をします。感染者の血液などが付着した器具で外傷を受ける「針刺し事故」や「血液・体液曝露」などによる感染症から職員の安全を守るのも私たちの役割です。

Q 新型コロナウイルスが5類感染症扱いになったことで、感染対策チームの今後の役割はどのようになりますか？

新型コロナウイルス感染症が院内で流行するのを防ぎながら他の疾患の患者さんの診療も円滑に行われるよう、5類感染症移行後の感染対策の在り方を適宜見直している最中です。

流行の兆しを察知する
これも大切な役割

ここ数年は新型コロナウイルスが大きな話題になっていますが、夏風邪やインフルエンザのような季節性のものからパンデミックまで、様々な感染症の防止対策や管理を行うことが私たちの基本的な仕事です。また、目の前の感染を抑え込み、増やさないようにすることはもちろん、感染の流行を予測することも大切な業務です。そのため、仙台や近隣の地域で流行しつつある感染症の情報や、仙台医療センターにある「ウイルスセンター」から発信されるウイルスの検出状況などを参考に、流行の兆候を事前に把握できる体制を整えています。私たちチームの活動は主に院内で行っていますが、こうして外部機関と連携して情報を得ることで、特にウイルス性の感染症が重症化するリスクの高い高齢者の方へ向けた注意喚起もできるようになります。

感染症治療のために
常に質の高い検査を徹底

感染症治療は、患者さんの^{かぐたん}喀痰、血液、尿などの検体を検査することではじめて治療方針が決まります。

呼吸器科における感染症治療では細菌やウイルスなどの病原体を徹底的に調べ、学術的な側面にも力を入れて診療しています。このような感染症治療を支えているのが私たち感染対策チームの日々の務めであり、醍醐味でもあります。

塩釜市を中心に地域の医療を支える坂総合病院。適切な治療と高度な技術で人々を支えています。今回は、院内における「感染対策チーム」の役割について聞きました。

矢島 剛洋 (やじま たけひろ)

北海道出身。札幌医科大学卒業。呼吸器内科医として臨床に携わる一方で、2018年より仙台医療センターにてウイルス研究に尽力し、東北大学大学院医学博士号を取得。現在は坂総合病院の感染対策委員長を務める。

おしえて先生



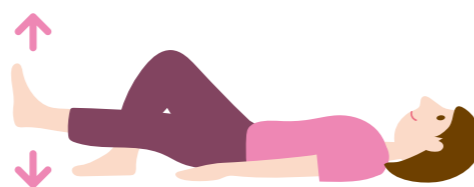
感染対策チームの皆さん。専門的な知識を持ちより、院内すべての人を感染から守る活動を行う

#6 運動不足解決に役立つ室内運動②

体を動かしたいけれど、暑さの厳しいこの時期の外出は億劫…。そんなときは室内運動で体力維持を！
気になる部位を集中して行ったり、いくつかの運動を組み合わせたりと自分の体調に合わせて行いましょう。

膝痛予防のための「太もも前面の運動」

- 1 仰向けに寝て片脚の膝を立てる。もう片方の脚を伸ばし、その脚を上げ下げする。
- 2 ①の動作を10～20回行ったら、反対の脚も同様に行う。各脚2～3セット実施。



〈注意点〉 きつい人は回数やセット数を減らす。脚を高く上げると腰や股関節が痛む場合は高く上げ過ぎないようにし、痛みの少ない角度を探す。

「運動療法センターのびのび」とは…？

坂総合クリニック1号館6階にあるメディカルフィットネス。健康増進・疾病予防運動、生活習慣病の運動療法、介護予防運動などを実践する施設です。

※現在は感染症対策のため、特定の病気の重症化予防を目的として個別にご利用いただいています

10～20回

2～3
セット

栄養手帖 ■■ -食養室だより-

水分補給で夏バテ予防！

1日に約2,600mLの水分が失われる私たちの体。そのため、飲料水や食事での水分補給が大切です。暑い夏こそ水分補給を心がけましょう。

水分補給のポイントは？

水分不足を防ぐために、意識的に水を飲む習慣を付けることが大切です。目標は、1日約1.8～2.0L。水分が不足しがちな起床時や就寝時、入浴後に飲むことも大切ですが、1日を通して小分けに飲むこともポイントです。

※肝疾患や腎疾患の方は、水分を控える場合もありますので主治医と相談しましょう。

どんな飲み物がいいの？

基本的には水やお茶がおすすめです。夜は睡眠を阻害するカフェインを控えるために番茶やほうじ茶がよいでしょう。

たくさん汗をかいたときには、スポーツ飲料のように糖分や電解質（ミネラル）が入ったものを飲みましょう。スポーツ飲料は水よりも体液に近いため体に早く吸収されます。ただし糖質が入っている分エネルギーが高く、水の代わりとして大量に飲むのは避けてください。



支えるひとたち



第33回 生理検査室

坂総合病院を、そして患者さんを支える人々。その「人となり」に迫ります。

中学生の時に大きな怪我をしたことで病院通いの日々だった高校時代。その中で多くの医療職の方にお世話になったこと、友人の母親から臨床検査技師という職業を教えてもらったことがこの仕事につながっています。

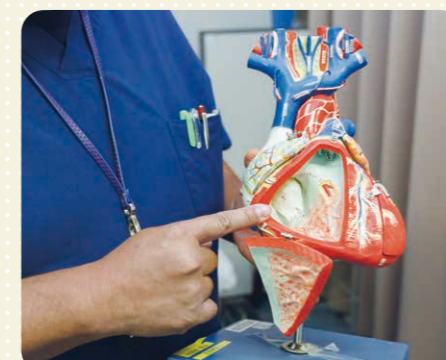
私は主に患者さんを直接検査する心電図やエコー、生理検査を行なっています。月に2、3度、夜勤で検体検査や緊急の輸血対応を行うのも私の担当です。見た目にも目立つからか患者さんに覚えられることが多く、定期検査の際に笑顔で声を掛けていただいたり退院前に挨拶に来ていただくとうれしくなります。

検査のときは誰でも不安を抱えるもの。だからこそわずかな時間でも患者さんの話を聞いて気持ちとを和らげたいです。そして今後は後進の育成に力を入れ、少人数でも件数や質を落とさない組織作りをしていきたいです。



今野 伸康 (こんの のぶやす)
臨床検査技師/生理検査室 主任

先々代の検査室担当医が寄贈した心臓の模型。エコーの映像では想像しにくい心臓の仕組みを理解するに最適で、今も現役で使用しています。



次号は

毛利 瑠夏
（クリニック診療サービス課）

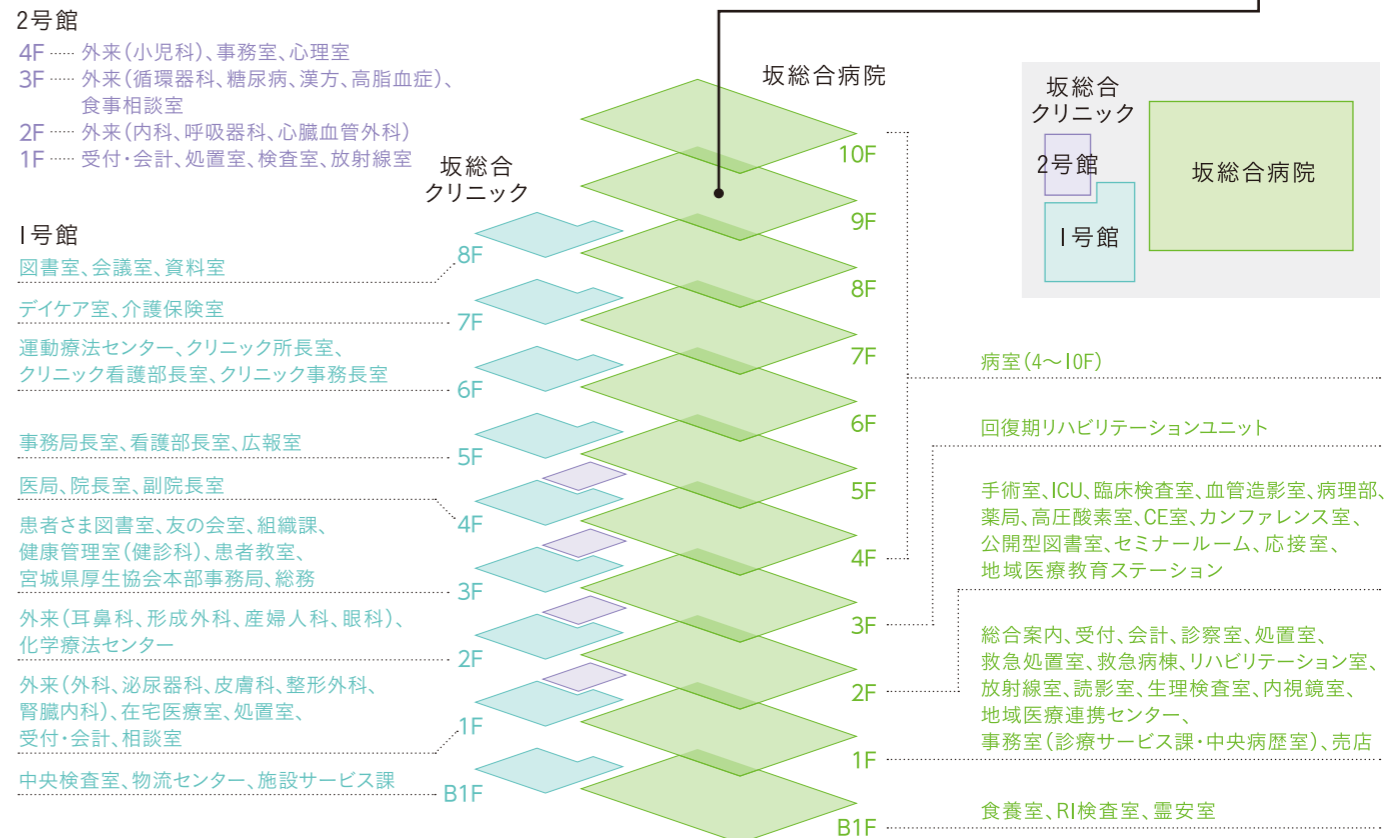
小野寺 ひろみ (おのでら ひろみ)
病棟部長

コロナ禍に対応するため業務体制を変え、9階病棟は呼吸器内科と緩和科の混合病棟になりました。肺癌、肺炎、間質性肺炎、肺結核、COPD、気胸、膿胸、喘息、さらに睡眠時無呼吸症候群の検査入院や血液疾患、腫瘍内科にも対応し、急性期から慢性期〜終末期の治療看護を行っています。症状緩和を必要とする方への呼吸苦や疼痛、せん妄



のコントロールや看護も私たちの役割です。化学療法治療・呼吸器を使用した急性期治療、慢性期疾患を有する高齢者の患者さんもあり、状態が安定しても生活に支障を来すケースもあるため、リハビリスタッフや退院支援看護師、医療ソーシャルワーカーなどが集まり相談をして退院後を見据えた看護に 대응しようと日々奮闘しています。

先日、在宅酸素・NPPV使用で在宅退院をした患者さんの往診に同行し、自宅療養の場を訪問しました。同行した看護師は「今後の退院支援に何が必要か」という学びがあったと話していました。9階病棟の看護目標は患者さんの期待にこたえる生活支援をすることです。地域での生活に触れる機会を作りながら、今後予定している緩和ケア科と呼吸器内科病棟の体制強化に向けてそれぞれの目指す看護に取り組んでいきます。



経済的に不安のある方にも適切な医療を届けるために

無料低額診療事業のご案内

このような方はいませんか？

- 病気や障害によって一時的に収入が減り、医療費の支払いに困っている。
- 収入は年金のみ。生活がぎりぎり医療費の支払いが難しい。
- 「医療費が払えない」と治療を受けられずに悩んでいる。

「無料低額診療事業」とは経済的な理由で必要な医療を受けられない方に対し、安心して治療を受けられるよう、医療費の一部負担金を無料または低額な料金で診療を行う事業です。

詳細は坂総合病院の医療相談室へお問い合わせください。電話での相談も受け付けています。代表電話へ連絡のうえ、「無料低額診療の相談です」と申し出てください。▶代表:022-365-5175

がん相談窓口のご紹介

がん専門相談員 富山 光江 (とみやま みつえ)

がんかも知れないと思ったとき、がんと診断されたとき、誰でも動揺したり、不安な気持ちになります。

坂総合病院にはそんな不安な気持ちを相談できる窓口があります。がん相談の専門資格を持った看護師と社会福祉士が相談に応じています。

治療の選択や抗がん剤による副作用、医療費などの経済的な不安や「利用可能な制度はあるか」「仕事と治療の両立はできるか」「在宅で治療は受けられるか」といった様々な心配事をお聞きし、一緒に考え、必要な情報を提供いたします。

がんになっても安心して生活を送れるように支援します。当院で治療を受けていなくても、匿名の相談が可能です。来院が難しい方は電話でも対応します。プライバシーは厳守します。

〈がん相談窓口〉

場所 坂総合病院1階
地域連携センター内

時間 月～金曜9:00～17:00
土曜9:00～12:30

TEL 022-367-9025
(医療相談室直通)
※予約不要、相談無料

坂総合病院 がん相談窓口 🔍 検索